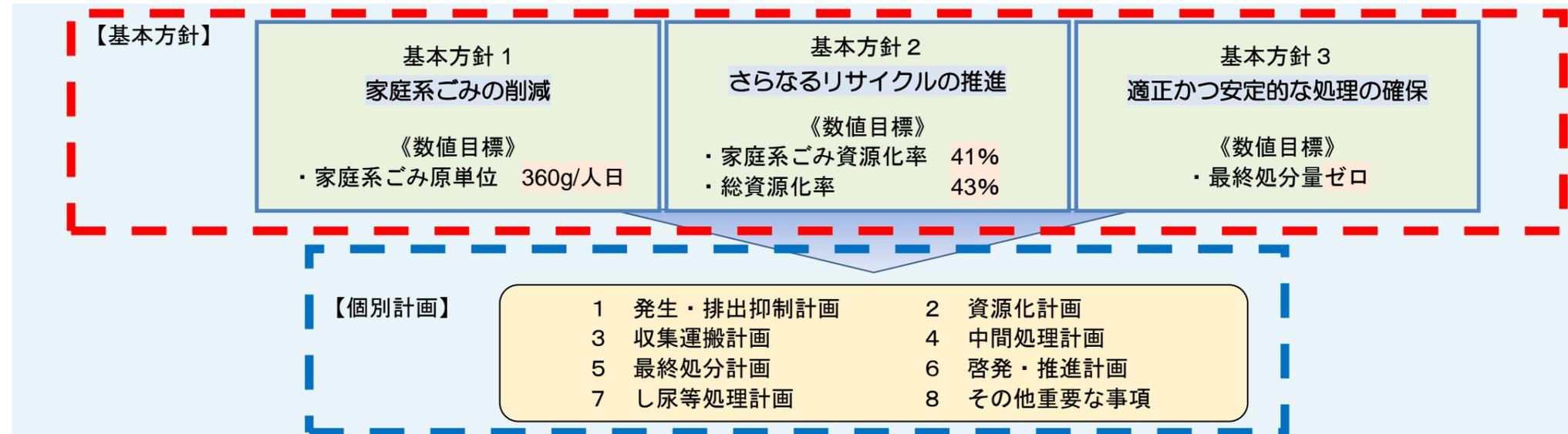


# 現基本計画の進捗状況と主な課題

## ■現基本計画の基本方針と目標

**基本的考え方：ごみの発生抑制を最優先とし、資源循環型社会の構築を目指す**



## ■進捗状況と関連する委員ご意見、主な課題について

評価 A：達成できた。 B：ほぼ達成できた。 C：改善、見直しが必要

### ○数値目標

基本方針ごとの目標と実績	評価	進捗状況	関連する委員ご意見（参考資料1より）	課題
<b>目標1 家庭系ごみ原単位</b> 	C	○家庭系ごみ原単位は、平成31年度以降、消費増税やコロナ禍の影響を受け増加しており、最終年度（令和4年度）の目標（360g）の達成は困難な状況にあります。 ○「総資源化率」はほぼ目標に近づいているものの、「家庭系ごみ資源化率」はコロナ禍における家庭系ごみ量の増加の影響により目標を下回って推移しています。 ○最終処分量はゼロを維持しています。	○コロナ禍は想定されていなかったため、目標未達はやむを得ないのではないかと。 ○増えたごみを安全にかつコストも考え効率的に処理し、環境負荷を増やさないという考えはできないか。 ○調布市がゼロカーボンシティを宣言していることもあり、脱炭素に係わる考えをごみ処理計画や方針、目標に加える必要はないか。 ○事業系ごみの数値目標を掲げるべきか。	○計画見直しにあたっての「基本理念」「目指す都市像」に沿った目標設定のあり方 ○コロナ禍における新しい生活様式を踏まえた推計・予測推計 ○事業系ごみの数値目標のあり方 ○集団回収を実施する団体の維持・確保 ○組成分析結果を基にした食品ロスの削減、古紙をはじめとした分別の徹底 ○エコセメント化施設の老朽化 ○最終処分施設の使用率は46%（令和3年11月時点） ○廃棄物処理施策に係る環境への配慮
<b>目標2 資源化率</b> 	B			
<b>目標3 最終処分量</b> 《最終処分量（埋立）ゼロを継続》	A			

○個別計画

個別計画及び施策と取組	評価	進捗状況	○関連する委員ご意見（参考資料1より） ◆関連する審議会の建議（参考資料2より）	課題
<p><b>1 発生・排出抑制計画</b></p> <p>①リユース（再使用）の取組強化 ②事業者による自主回収の強化 ③家庭系ごみの減量策の強化 ④事業系ごみの減量策の強化</p> <p>【関連】 基本方針1・2</p>	<p>B</p>	<p>○利再来留（りさいくる）館の運営やリユース食器の提供を実施しました。</p> <p>○プラごみ削減に向け、「CHOFU プラスチック・スマート・アクション」で市の率先実行や市民・事業者へ呼びかけました。</p> <p>○事業系ごみは増加傾向にありましたが、コロナ禍の影響で昨年度は減少しました。</p> <p>○調布市ごみアプリの導入、ごみ対策課広報誌「ザ・リサイクル」、HP等の各種媒体の活用により広報・PRを実施しました。</p> <p>○生ごみ処理機購入費助成制度や水切りネットの利用促進により、ごみ減量への働きかけを行いました。</p>	<p>○プラスチック資源循環促進法に対応するリユース（櫛、歯ブラシ、フォーク等）取り組みの強化。</p> <p>○利再来留館（りさいくるかん）の現状と今後の方向性は。</p> <p>○事業者と連携した取り組み（例：世田谷ジモティなど）や、リサイクル推進協力店に対する支援、新たな取り組みを行う事業者への支援。</p> <p>○事業者による自主回収の強化は、自治体の負担軽減の見地からも重要と考える。</p> <p>○事業系ごみを減らすための具体的な対策を知りたい。など</p> <p>○インクカートリッジの回収場所が少ない。など</p> <p>◆プラスチックの削減に取り組む企業のPRなどにより市民・事業者の意識啓発</p> <p>◆食品ロスの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PR・啓発や環境教育</li> <li>・食品ロス削減に取り組む飲食店等の認定制度の検討</li> <li>・フードドライブ事業の推進</li> </ul> <p>◆剪定枝チップ化事業の拡充</p>	<p>○リユース（再使用）の促進策のあり方</p> <p>○店頭回収など事業者の自主回収を促す取り組みや、家庭の剪定枝、食品ロス、使い捨てプラ等を減量する取り組みの推進。</p> <p>○事業者の自主回収など、多様な循環の実現</p> <p>○インクカートリッジを含めたメーカー等自主回収の推進</p>
<p><b>2 資源化計画</b></p> <p>①事業者に対する自己処理責任の明確化 ②分別の徹底 ③資源回収の継続 ④資源物の持ち去り対策</p> <p>【関連】 基本方針1・2</p>	<p>B</p>	<p>○現在の計画期間中、事業系ごみは令和2年度を除き増加傾向にあり、市の収集に排出している小規模事業所も含め、適正排出や資源分別をより徹底する必要があります。</p> <p>○本市の資源化率は全国的にも高い水準にあります。ただし古紙類やプラスチック類など細かい部分で分別の不徹底が見られます。</p> <p>○組成分析調査結果を細分化したことにより分別・排出の課題を精査しました。</p> <p>○集団回収の登録団体構成員の高齢化等により、団体数及び回収量の減少は避けられない状況にあります。</p>	<p>○中小事業所に対しては大規模事業所と比べると取組みの程度が弱いように思われる。</p> <p>○転入時、特に単身・若年層に理解してもらうことが必要と思います。</p> <p>○資源回収の品目について、現行の基準から増やすことは考えていないのか。</p> <p>◆容器包装プラや古紙（雑紙）の分別徹底</p> <p>◆枝・草・葉の新たな資源化方法の導入に向けた検討</p> <p>◆集団回収や店頭回収による古紙リサイクルの推進</p> <p>◆「プラスチック資源循環促進法」の動向を見ながら、今後のプラスチックリサイクルのあり方を検討</p>	<p>○中小事業者を中心とした事業系ごみの適正排出・資源化の推進</p> <p>○継続的な分別徹底方策の実施</p> <p>○プラスチック資源循環促進法の施行を受けた、プラスチックごみ（製品プラ・容器包装プラ）の分別収集・リサイクルのあり方</p> <p>○社会状況に応じた集団回収方法の検討と推進</p> <p>○民間企業の自主回収の活用促進</p>

個別計画及び施策と取組	評価	進捗状況	○関連する委員ご意見（参考資料 1 より） ◆関連する審議会の建議（参考資料 2 より）	課題
<b>3 収集運搬計画</b> ① 収集・運搬体制の維持 ② み排出に係る管理・指導の強化 【関連】 基本方針 1・2	A	○コロナ禍による影響があったものの、現行収集・運搬体制を維持し、ごみ・資源の円滑な収集運搬を実施しました。 ○促進員や収集運搬業者、集合住宅管理者等と連携した排出指導を実施しました。	○ふれあい収集で費用は増加しますが、今後、要介護認定者等が確実に増えるので必要なことと思いました。 ○単身者の多い集合住宅への、分別指導の強化が必要。 など ◆古紙の品質確保に向け、回収方法の工夫の検討	○継続的な収集・運搬体制の維持、ふれあい収集の充実 ○関係者と連携したごみ排出管理・指導体制の維持
<b>4 中間処理計画</b> ① 中間処理システムの維持 ② 資源化施設の整備 【関連】 基本方針 2	A	○ふじみ衛生組合及び三鷹市と連携し中間処理システムを維持しました。 ○廃棄物再利用等促進審議会を中心に、枝・草・葉の資源化などについて検討しました。 ○平成 31 年に調布市クリーンセンターが稼働しました。	○生ごみ処理について、たい肥化、バイオマスイエネギー回収などの対策を検討すべきか。 ○循環システム更に進めていくのでしょうか。 など	○ふじみ衛生組合リサイクルセンターの老朽化に伴う更新 ○生ごみや枝・草・葉といった有機性資源の調布市としてのリサイクルのあり方
<b>5 最終処分計画</b> ① エコセメント化施設の利用 ② リサイクル施設からの処理残渣の資源化 【関連】 基本方針 3	A	○東京たま広域資源循環組合におけるエコセメント化事業により、調布市の最終処分量ゼロを維持しました。また、平成 31 年度以降は同施設の埋め立てゼロとなっている。 ○ふじみ衛生組合リサイクルセンターで発生するプラ処理残さは焼却処理・エネルギー回収を行いました。	○エコセメントの使用先が SGD s や脱炭素化、国土強靱化策などに貢献しているならアピールすべきと思う。 など	○現行体制の安定的な維持 ○エコセメント化施設の老朽化に伴う更新 ○最終処分施設の使用率は 46%
<b>6 啓発・推進計画</b> ① 無関心層等に対する取組の強化 ② 環境教育・学習の強化 ③ 的を絞った普及啓発 ④ 行動の支援策の実施 ⑤ 協働による各種取組の実践 ⑥ 情報発信の調査・研究 【関連】 基本方針 1・2	B	○各種イベント、広報誌「ザ・リサイクル」等の媒体、調布市ごみアプリ等を通じ、情報発信と普及啓発を実施しました。 ○廃棄物再利用等促進審議会、廃棄物減量及び再利用促進員制度を中心に、各主体との連携・協働を図りましたが、新たなしくみづくりには至っていません。	○無関心の人々も市報やホームページなどの広報物を見ないので、SNS 上にターゲット広告を打つ取組はどうか。 ○小学生などへの環境教育は大変大切だと思う。 ○行動支援の活性化のための付加価値ある施策の検討はどうか。 ○「協働の仕組みづくりの検討」の検討状況と課題は何か。など ◆清掃活動・環境教育による「海洋ごみ問題」への取り組み ◆事業系ごみの減量・リサイクルに関する PR や意識啓発への取り組み	○引き続き効果的な情報発信、普及啓発 ○子どもに向けた効果的な教育機会の提供 ○「ごみ減量・リサイクル協力店」、「調布エコ・オフィス」の各制度の拡充・見直し ○食品ロス・プラスチック削減、環境教育、分別の徹底等、取組課題に応じた市民や事業者の活動支援、連携・協働のあり方の検討 ○各種団体、事業者からの参加と協働

個別計画及び施策と取組	評価	進捗状況	○関連する委員ご意見（参考資料1より） ◆関連する審議会の建議（参考資料2より）	課題
7 し尿処理計画 ① 尿等の確実な処理 ② 災害時の対応  【関連】 基本方針3	A	○下水道未接続者やイベント等に使用される仮設トイレのし尿の安定した収集を行いました。 ○災害時のし尿・処理方法・体制等について、調布市災害廃棄物処理マニュアルを策定しました。	—	○未接続者に対する接続の働きかけ
8 その他重要な事項 ①一般廃棄物処理基本計画の進捗確認 ②収集・処理できない廃棄物への対応 ③不法投棄の撲滅 ④ごみ処理コストの削減 ⑥環境負荷の低減 ⑦ごみ減量・リサイクルによる成果の可視化  【関連】 基本方針1・2・3	B	○毎年度の実施計画に基づき、基本計画の進捗管理を行いました。ごみ減量目標の達成に向け「ごみダイエット注意報」で市民への呼びかけを行いました。 ○車両火災につながる充電式電池の増加などに対応し、有害ごみへの排出徹底を呼びかけました。 ○海洋プラスチック問題に関する普及啓発活動を実施しました。 ○プラスチック削減に向け、「CHOFU プラスチック・スマート・アクション」で市の率先実行や市民・事業者への呼びかけを行いました。	○計画の進捗管理における KGI（重要目標達成指標）や KPI（取組の評価指標）の意識 ○近年のモバイルバッテリーや蓄電池内蔵型の商品への対応の強化は？ ○不法投棄対策としてパトロールの強化などの検討はいかがでしょうか。 ○気象の変動により今後も、自然災害が増加すると思われます。災害時の対策強化が必要と思います。 ○ごみ収集車両は、ふじみ衛生組合で発生した電力で走る EV 車にすれば良いのでは。など	○計画の効果的な進捗管理と市民・事業者への情報発信 ○処理困難物への対応や不法投棄対策の継続 ○SDGs、「ゼロカーボン」の計画への反映のあり方 ○災害廃棄物処理計画の基本計画への位置付け